

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター（厚生労働省補助事業）
「飲酒と生活習慣に関する調査」 結果速報 の公開

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センターが、厚生労働省の補助を受けて実施した
「飲酒と生活習慣に関する調査」の主要な結果をとりまとめ公表しました。

<https://kurihama.hosp.go.jp/about/information/article/2025-09-01.html>

「飲酒と生活習慣に関する調査」 結果速報

<https://www.ncasa-japan.jp/pdf/document112.pdf>

主な調査結果

1. 国民の飲酒行動の実態

- 過去1年間に飲酒をした経験があると答えた人は男性で75.2%、女性で55.1%
- 1週間に4回以上飲酒している人の割合は、男性で33.4%、女性で11.9%
- ふだん6ドリンク以上※1) 飲んでいる人の割合は男性で11.2%、女性で2.7%
※1) 1ドリンク=純アルコール量10g相当
 - ふだんの飲酒量が多い年代は（1度に6ドリンク以上の多量飲酒者）、
男性は50代（15.1%）、40代（14.7%）、女性は40代（4.9%）、20代（4.8%）

2. 国民のアルコール依存症／アルコール使用障害が疑われる者の割合・人数の推計

- ICD-10診断基準における「生涯のアルコール依存症が疑われる者の割合」は、全体で0.6%（男性1.2%、女性0.2%）であり、全国で約64.4万人と推計
- 「過去1年間にアルコール使用障害が疑われる者の割合」は全体で3.0%（男性5.4%、女性0.8%）であり、全国で約304.1万人と推計

アルコール使用障害が疑われる者の主な特徴は以下の通り

- 問題行動すべての項目で、アルコール使用障害の疑いの群が他の群と比較して「あった」と答えた割合が高かった。
 - 「会社や学校を遅刻・欠席・欠勤した」33.9%、「口論した」45.5%、「物を壊した」24.1%など
- アテネ不眠尺度（Athens Insomnia Scale：AIS）を用いて、対象者の睡眠／不眠の状態について測定した結果、アルコール使用障害が疑われる者の群は、「不眠症の可能性が高い（6～24点）」の該当者割合が有意に高かった（ $p < .01$ ）
- アルコール問題についての相談経験「なし」が95.8%

厚生労働省 第3期アルコール健康障害対策推進基本計画の報告書案は、2025年末を目途にまとめられる予定